

授業科目(ナンバリング)	薬物治療学Ⅲ (NE407)			担当教員	山口 拓・小川 由起子		
展開方法	講義	単位数	1.5 単位	開講年次・時期	4 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
薬物治療学ⅠおよびⅡに引き続き、患者の病態に応じて薬の選択、用法・用量の設定から、適正な医薬品使用のために、代表的な疾患に対する薬物治療の理解を深め、臨床薬剤師として必要な基本的知識を修得することを目的とする。本講義は、薬理学で学んだ各種治療薬の基礎に基づき、薬理・薬剤系教科や病態生理学(疾病学)などの治療学系教科に続く臨床応用(薬物療法)の授業として位置づけられる。							①②③⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	(1) 主要な疾患について、その病因の概略を説明できる。 (2) 治療薬の作用機構や特徴に即して、合理的な薬物療法を説明できる。 (3) 疾患の病態に合わせた合理的な薬物療法を判断できる。				中間テスト 定期試験	40% 60%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
記述式を中心とした中間テストおよび定期試験の結果で厳正に評価する。中間テスト(筆記試験:90分)は、小川担当内容について講義時間外に実施し、評価比率を40%とする。定期試験(筆記試験:90分)では、山口担当内容について実施し、評価比率を60%とする。最終的に中間テストと定期試験を合計して評価し、その結果は定期試験の結果公開と同様のスタイルでフィードバックする。全講義時間の3分の1を超える欠席のあった学生は、定期試験の受験資格を喪失する。							
授 業 の 概 要							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染症(細菌感染症、ウイルス感染症、原虫・寄生虫感染症)における薬物治療</li> <li>2. 悪性腫瘍における薬物治療(悪性腫瘍各論、支持療法、がん性疼痛の緩和医療)</li> <li>3. 神経疾患(てんかん・片頭痛、パーキンソン病、認知症)における薬物治療</li> <li>4. 精神疾患(統合失調症、うつ病・双極性障害、不安障害、睡眠障害)における薬物治療</li> </ol> <p>上記の疾患について、最新の治療ガイドライン、臨床で用いられる治療薬の種類(効能・効果)と代表的な処方、薬剤(同種同効薬を中心に)の使い分け、使用上の注意、副作用とその対処法について講義する。また、疾患に関連する新たに上市された最新の治療薬についての医薬品情報も紹介する。教科書、プリント、パワーポイント、動画などを用いて授業を進める。また、内容の理解度を深める授業外学修のために、医薬品関連情報(新薬情報を含む)および疾患関連情報についてポートフォリオを通じて提供する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分です。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書: Visual core pharma 薬物治療学(南山堂) 参考書: 今日の治療薬(南江堂)、治療薬マニュアル(医学書院)、薬がみえる vol.1~4 (Medic Media) 指定図書: Visual core pharma 薬物治療学(南山堂)、新しい疾患薬理学(南江堂)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>薬物治療学の理解には、疾患に対する知識(疾病学、病態生理学、病理学)、使用薬物に関する知識(薬理学、薬剤学)、薬物動態に関する知識が必要とされる。時には、生化学、機能形態学(生理学、解剖学)などの基礎的な生物学的知識を総動員して理解を深めることも重要である。該当疾患に関連する既習分野(特に生化学、機能形態学、薬理学、疾病学、微生物学、病原微生物・ウイルス学、微生物薬品学)については授業前に復習しておくことを強く推奨する。また、授業内容に対する積極的な質問を歓迎する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標番号*
1	イントロダクション	講義概要と授業方針の説明 (山口・小川)	—	573, 590
1 2 3	感染症 (1)~(3)	(1) 細菌感染症における薬物治療の位置づけ、処方、副作用 (2) ウィルス感染症における薬物治療の位置づけ、処方、副作用 (3) 真菌、原虫・寄生虫感染症における薬物治療の位置づけ、処方、副作用 (小川)	事前配付資料ならびに病原微生物、感染症全般とその治療薬について記載されている教科書の該当項目を予習しておく  予習・復習として関連項目に関する既履修科目内容（機能形態学、生化学、微生物学、疾病学など、特に薬理学）の確認 (以下、同様)	(1) 689, 691, 692, 693, 694, 695, 696, 697, 698, 699, 700, 701 (2) 702, 703, 704, 705, 706, 707 (3) 708, 709, 710, 711
4 5 6	悪性腫瘍 各論	悪性腫瘍の病態生理、症状、治療 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけと薬剤の分類 各種抗悪性腫瘍薬の作用機序 悪性腫瘍の種類と処方 (小川)	事前配付資料ならびに悪性腫瘍とその治療薬、化学療法について記載されている教科書の該当項目を予習しておく	714, 718, 719, 720, 721, 722, 723, 724, 725, 726, 727
7	悪性腫瘍 (支持療法)	抗悪性腫瘍薬による主な副作用とその症状、および対処療法 (支持療法) (山口)	事前配付資料ならびに抗悪性腫瘍薬による有害作用が記載されている教科書の該当項目を予習しておく	714, 717, 728, 729
8	緩和医療 (癌性疼痛)	医療用麻薬を中心とする鎮痛薬を用いた癌性疼痛における薬物治療 (緩和医療) の位置づけ、処方、副作用 癌性疼痛に対して使用される薬物、使用上の注意 (山口)	事前配付資料ならびに癌性疼痛ならびに医療用麻薬を含む鎮痛薬全般について記載されている教科書の該当項目を予習しておく	603, 604, 728, 729
9 10 11	神経疾患 (1)~(3)	(1) てんかん・片頭痛における薬物治療の位置づけ、処方、副作用 (2) パーキンソン病における薬物治療の位置づけ、処方、副作用 (3) 認知症における薬物治療の位置づけ、処方、副作用 (山口)	事前配付資料ならびに神経疾患(特にてんかん、片頭痛、パーキンソン病、認知症)とその治療薬について記載されている教科書の該当項目を予習しておく	(1) 609, 613 (2) 611 (3) 612, 615, 617
12 13 14 15	精神疾患 (1)~(4)	(1) 統合失調症における薬物治療の位置づけ、処方、副作用 (2) うつ病・双極性障害における薬物治療の位置づけ、処方、副作用 (3) 不安障害における薬物治療の位置づけ、処方、副作用 (4) 睡眠障害における薬物治療の位置づけ、処方、副作用 (山口)	事前配付資料ならびに精神疾患(特に統合失調症、うつ病・双極性障害、不安障害、睡眠障害)とその治療薬について記載されている教科書の該当項目を予習しておく	(1) 606 (2) 607 (3) 608 (4) 603, 615, 617
16	定期試験	筆記試験 (90分)		

注) 上記の第1回~第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

\*到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SBO 番号/項目対応表を参照して下さい。